



全日本護身道連盟大阪泉南支部の有明館道場(袖岡一禎館長)を訪問した。名称に気おくれしながら案内を請うと袖岡(ゆおか)館長が直接応対に出てこれ、その物腰の柔らかさには剣士の堅さがなくホッとす。

「八年前から道場を開いていますが、スポーツチャンバラを教えるはじめて五年になります」とのこと。耳慣れぬ「スポーツチャンバラ」なるものの由来を拝聴する。

「剣道は古武道として伝統を守らねばなりません。だが、籠手、胴、面の防具は硬くて職場の3K条件そのものです。その上、勝敗は指定部位を決めてポイントを争うといった点で実戦的ではありません」と、剣の道に励んだ人ゆえの、疑問への説得力を感じる。

水泳や野球と同じ感覚で剣を楽しめたらと考えていた時に出会ったのがスポーツチャンバラ。「これをまさしく21世紀の剣道ですよ」と熱弁。

「小太刀護身道」というのが正式名称。立派な武道の一つで支部は全国に300、大阪には当道場を含め

泉州の人 泉佐野市

スポーツチャンバラ
有明館道場館長

袖岡 禎さん(49)



て三ヶ所。会員数は四万人。ルールは、どこを打っても良い。どこを打たれても負け。相討ちは双方負け。自由奔放に、正々堂々と思いつき叩き合う実戦的な格技。使用する道具は、プラスチック製のパイプにウレタンを巻きつけた長さ60cmの小太刀、同一寸の長剣、このほか槍、杖、棒の三種がある。

稽古の始まる午後5時近くになると、豆剣士たちが三々五々道場に姿を見せはじめた。道着に着替える子供やそのままの服装の子供たちが、稽古前の一刻を専用の小太刀で叩き合いに興じているのを見て「スポーツチャンバラ」が、理屈抜きで受け入れられているのが伝わってくる。

護身道六段錬士の実力を持つ袖岡館長が道着姿で道場に立つと、ピリッとした緊張感が場内に流れる。正座から始まって正座に終わる作法に従って稽古が始まる。稽古は一對一もあれば合戦といって、グループによるゲームもある。

袖岡館長は「剣道からは邪道という意見も聞かれるが、これはあくまでも護身道で活人剣として理にかなったものです。将来は体育協会に認知されて、団体種目にも高めたい」と意気盛ん。

道場を辞するころは日もトンプリ暮れていた。子供たちの明るい掛け声が誘われて思わず「エイ、ヤ」が口をついて出た。